

「松本市文化芸術振興審議会」第2回審議会の議事概要

- 1 日 時 平成27年8月21日（金）午前9時30分から午前11時30分まで
- 2 場 所 大手会議室A（大手事務所6階）
- 3 出席者 （委員） 笹本会長、花輪副会長、小松委員、宮嶋委員、瀧沢委員、倉澤委員、小澤委員、辻本委員、佐久間委員
（事務局） 久保田文化振興課長、原文化振興課課長補佐、村井文化振興課係長、小林主査

4 議事等

- (1) 開会
- (2) 課長挨拶
- (3) 報告事項

ア 会議と会議録の公開についての確認

- 会議録はメールと紙媒体の両方で報告する。
- 会議は公開とする。ただし内容等問題がある場合には委員の判断で一部非公開とする場合がある。
- 会議の内容については、要点をまとめたものをHP等で公表する。ただし、委員名は伏せる。

イ 関係事務事業の評価・検証結果及び本市の文化芸術の現状と課題について

【委員】

- 事業の実施対象期間はいつからいつまでか？

<事務局>

- 平成22年度から平成26年度の5年間の事業を調査対象とした。

【委員】

- 実施率の判定基準は？

<事務局>

- 実際に事業に取り組んだかどうかということを基準にしている。

(4) 協議事項

ア 文化芸術の定義と基本方針の対象

【委員】

- 表現については「松本らしさ」を一番前に持ってくると思う。
- 「松本らしさ」を一番前に入れると、「私たちの市は私たちの文化を意識し育てていきます」という共通の認識が持てる。
- 市民にとって文化振興をすることの意義をきちんと入れこんで、市民が共有

の文化を認識できるような言葉を入れて欲しい。

- 芸術文化振興の意義・対象は、何のためにこれをやるのかを共有すると思う。松本市がどういう状態になったらいいかを考えていく。
- 芸術文化を振興することによって、市の未来や自分たちの子孫の生活までを意識できるような作りにしたい。
- 「松本らしさ」を考えると、地域のお祭りも対象であると思う。
- 地域のお祭りのように生活実感を持った芸術文化は意識していくべき。
- 市民に見てもらえるものを作るには発信の仕方も重要。文化芸術振興の意義に関してはこれを通じて「未来」とか「目的」とか「市民の心をひとつにし」など今後の意義・役割を入れて欲しい。定義に関しては「松本らしさ」という部分を一番トップに持っていく。地域のお祭りや行事などは敢えて書かないが本委員会では共通認識とする。
- 意義の(1)、(2)というところの「振興の意義」というところをカットして、もう少し何か表現の工夫をした方がよいのではないか
- 市民にとっての意義をきちんと理解できるような文章を考えて。常に松本市民というのを意識しながらやれるような文章にしたい。
- 自主性、人づくり、人材育成というワードを入れていったらどうか。ソフト事業中心の組み立てというのがいいので、その辺りを入れて欲しい。

イ 基本方針に掲載する事業及び取り組み方針

【委員】

- 特長点のところに海外からの旅行者が多いことは入れて欲しい。
- 「楽都」については維持強化していく必要があると思う。
- 松本の資源が何かを共有しないといけない。本市の特徴点、問題点から今後の振興策を考えていく。
- 地域課題については問題設定自体がうまくいってない可能性がある。人材スキルを持った職員の人に対応すること。どういう問題把握状況の中でこういうものを書いているのかを説明していただきたい。
- 自分は飯田の獅子舞保存会に入っているが、松本には地元で昔から続いているものへのサポートがないように思える。
- 御船祭りなど素晴らしいものがたくさんあっても、継承する人がいなくなった時にどうするかという未来を考えていく。なぜこれが必要なのかをみんなで認識しておかないといいものは作れない。

ウ まとめ

【委員長】

- ◎ 意義については付け加えたり文章を直してもらおう。定義に関しては「松本らしさ」という部分を前面的に出す。現状の方では本市を取り巻く課題の中で市

の独自性・主体性を持った文章に手直しをする。本市の特長に関してはここに出てきている以外にも他の物も含め少し豊かにして欲しい。課題に関しては私たちの間ではリスクをうまく利用しながら認識をしていくということでやっていく。事務局にはそれを反映した書類を1回作ってもらう。最終的には松本の市民にとって少しでも心豊かな生活ができるように、文化とはいったい何かということをひとりひとりが認識して努力していく。

<事務局>

- 最終案には今日の中身も含めてできるだけ取り込んでいけるような形で工夫をしてみたい。